

「世界の中心・ニューヨークで多文化共生社会を体験」

H28 年度遊学者 鬼頭 直美

“人種のるつぼ”といわれるニューヨークで多文化共生の実状を知り、日本と比較して課題を見つきたい。その思いを胸に抱き、日本を飛び出しニューヨークに降り立ちました。

～ 「IACE TRAVEL」 様でのインターンシップ～

【旅行業務体験を通して、世界に通じる「おもてなし」の心を学ぶ】

到着した翌日から、すぐにインターンシップが始まりました。人生初のインターンシップ、しかも海外での業務とあって不安と緊張でいっぱいスタートでした。初日に任された仕事は、JFK 空港でのお客様のお出迎えです。入国審査に時間がかかり、予定時刻を3時間もオーバーするという事態の中、私は与えられた目の前の仕事をこなすことで精一杯の1日でした。翌日からはマンハッタンの北ウエストチェスターでお客様の入寮のお手伝いや、ホテルのツアーデスクでの対応業務を担当させていただきました。



「お客様により快適な旅を提供したい」という社員の皆様の、真心のこもった“おもてなし”を間近で見させていただき、日本の“おもてなし”の精神は世界に通じるものであることを実感しました。相手を思いやり、相手が望むことを心を込めてしようとする“おもてなし”の細やかな気づかいが、日本でのより良い多文化共生社会の実現に大きく役立っているのではないかと思います。

～ 保育園 「StarChild Daycare」 様での国際ボランティア～

【多文化共生社会の中で生きる子供たちのサポート】

「将来、国際社会で幸せな人生を送れるように」と、豊かな人間形成を目指す教育が実践されている現場で、子供達一人ひとりの心に響く学びの場を体験させていただきました。ニューヨークという多文化共生社会の中で、子供達は多様な言語とそれに密接に関連した文化と共に暮らしています。多様な言語背景を持つ子供にとって母語で学習する機会は、自己形成に重要な役割を担っていることを実習で教えていただきました。

「StarChild Daycare」様では、保育を通して子供達が様々な価値観に触れ、ちがいを当然としてそれを尊重する教育がおこなわれています。このような幼少期の教育が、真に豊かな人間を育て、国際理解と未来の多文化共生へとつながっていくのだと強く感じました。

子どもたちの笑顔に支えられ、2週間の実習を無事終えることができました。流暢な英語を話す子供達にたじろぎながらも、一緒に過ごした時間は、かけがえのないものになりました。



～意見交流・民泊体験・市内探索 etc～

【ニューヨーク岐阜県人会の成田敦様 高橋愛一郎様との意見交流】

成田様 高橋様には渡米前、そしてニューヨーク滞在中にも何度もお声をかけていただき、あたたかくご支援いただきました。「滞在が有意義なものになるように県人会のメンバーでサポートできることがあればなんでも言ってください」と連絡をいただいた時には本当に嬉しかったです。また、お忙しい中、貴重なお時間を割いていただきましたこと感謝申し上げます。海外でご活躍していらっしゃるお二人のお話を伺い、憧れとともに私も将来、自分の力を活かせるような仕事に就きたいという思いが強くなりました。

【CLAIR(自治体国際化協会)様を訪問】

この訪問は遊学がまだ正式に決定する前から、東京の国際化協会の渡邊様にご尽力いただいて実現したものです。ニューヨークの事務所では、栗原様、丸野様から自治体国際化協会の業務内容や、自治体の海外活動支援について詳しく説明していただき、非常に勉強になりました。また、私の遊学のテーマであるニューヨークの多文化共生に関して、お二人の実体験も交えた貴重なご意見を伺うことができました。



【民泊でニュー Yorker 体験】

日本では 2020 年の東京オリンピック開催に向けて、訪日外国人のために民泊を増やそうという動きがあります。そこで、私は世界で最も民泊が盛んな地域の一つであるニューヨークで民泊を体験しました。民泊はホテルよりも安く、日常に近い滞在を可能にし、さらにホストとの交流ができるなど様々なメリットが挙げられます。実際に民泊を利用して見て、まったく新しい感覚の宿泊体験をすることができました。ホストのアメリカ人女性とは「協働」体験を通して、とても有意義な時間を過ごすことができましたと思います。



(写真:ホストからのメッセージ)

岐阜でも、民泊をはじめ“シェアリング”という新しい仕組みが、多文化共生と地域活性化にどのような影響をあたえるのか、今後、ビジネスとしてどのように活用されていくのか、新たな課題となってくると感じました。

【市内探索と現地ボランティアツアー参加】

マイノリティの問題、人種や民族の多様性を柔軟に受け止めるニューヨークとはどんなところなのか、人々が求める自由とは何なのかを自分の目で確かめるため、時間の許す限り市内の探索をしました。ストリートでは手を繋いで仲良く歩く同性のカップルを多く見かけ、日本では信じられないような奇抜なファッションをしていますが、周りの誰も振り返ることはありません。多様性が日常に溢れていて、その多様性を“社会のパワー”に変えることでニューヨークが息づいていることを肌で感じ取りました。

また、心を奪われるほどの美しい風景や、困っている時に「What's up!?!」と、声をかけてくれた親切なニュー Yorker を忘れることはできません。

そして、9.11 米同時多発テロの跡地では、鳥肌が立つ程の悲惨さを目の当たりにしました。当時の状況を知る現地の案内人の説明を聞いて、私はショックをかくしきれませんでした。

涙があふれる中、ひとりの人間として平和の重みを感じる大変貴重な経験をしました。



ブルックリン橋・ツアー



9.11 メモリアル・ツアー



摩天楼と追悼ライトアップ

— 遊学を終えて —

私が遊学で一番感じたことは、ニューヨークでは国籍や民族、宗教などが異なっても、互いのちがいを認め合い、互いの文化を尊重しながら、一人ひとりが思いっきり“自分らしく”生きているということです。この“自分らしく”生きたいと願う気持ちこそが、自分を大切にし、相手のことも大切にする心を育み、社会の一員として共に協力して生きていく多文化共生社会につながっているのではないかと思います。

遊学では多様な人々が「共生」・「協働」する現場を体験させていただきました。これは私が将来、多文化共生社会の推進のために何ができるのかを考える上で大きな糧になると信じています。



また、遊学の期間がちょうど、岐阜県知事がニューヨークにお見えになった時期と重なって、ミッドタウンでは岐阜県をPRするイベントが盛大におこなわれていました。

世界に誇れる岐阜県の素晴らしさをニューヨークで再認識することで、「岐阜と世界をつなぐ国際交流の担い手になりたい」という将来の夢への熱意が高まりました。

(写真：ジャパン・ソサエティでの“Discover the Charms of Gifu Prefecture”イベントパネル)

最後になりましたが、遊学のチャンスを与えてくださった青少年育成県民会議の皆様、ハビックス株式会社様に感謝いたします。

また、遊学前から大変なお力添えを賜りましたデトロイト岐阜県人会の丹羽筆人様、そしてお忙しい中、貴重な体験をさせていただいた「IACE TRAVEL」様、「StarChild Daycare」様に、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

